



ありあけ

佐賀大学農学部
同窓会報
No.30

発行日 2022年7月1日
編集 会報編集委員会

発行 佐賀大学農学部同窓会
住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ http://sadai.jp/alumni/nougakudousoukai/

目次

巻頭言

新会長としての思い
佐賀大学農学部同窓会長 森田 昭 … 1

令和4年度第37回農学部同窓会総会について … 3

同窓会表彰

同窓会会長賞受賞によせて 岡本 聖羅 … 5
西牟田 昴 … 5
川久保修佑 … 6
同窓会感謝状贈呈者（金丸安隆氏）の紹介 … 6

農学部情報

恩師からのメッセージ 和田 康彦 先生 … 7
内海 修一 先生 … 8

研究室紹介

食資源環境科学コース 農業生産機械学分野
稲葉 繁樹 准教授 … 9

トピックス 辻 一成 准教授 … 10

ホームカミングデー 佐賀大学校友会 … 11

若手OB・OGからのメッセージ

天敵を利用した害虫管理の技術開発に従事して
永石久美子 … 11
大学で学んだことを活かせる仕事です！
貫松 美里 … 12

会員の広場

同窓生との思いがけない出会い
山口 正吾 … 13

支部だより

佐賀県支部 溝口 善紀 … 14

同窓会からのお知らせ

会費納入のお願い … 14
農学部同窓会のFacebook開設 … 14

編集後記

… 14

協賛広告

… 15

巻頭言



新会長としての思い

佐賀大学農学部同窓会 会長 森田 昭
(S52年卒 農学・農経)

農学部同窓会では、会員の皆様が楽しみにされている定期総会を令和2年から3年連続で開催できない中、令和4年度を迎えました。特に、今年度の第37回定期総会（5月14日予定）は、2年に1回の役員改選期にあたり、皆様とお会いしないまま名簿掲載の新役員体制でのスタートとなりました。

私は昭和52年農学科・農経卒で佐賀県支部の森田昭です。水田和彦前会長（S51年卒 農土・機械）を引き継ぎ、会長を仰せつかりました。微力ながら、副会長や理事長・理事など役員並びの同窓会事務局の皆様のご支援をいただき、同窓会活動に貢献でき

ればと思っています。会員の皆様よろしく申し上げます。

なお、水田和彦さんには、各学部同窓会長の推薦を受け、全学同窓会長に就任されておりますので、この場をお借りしてご紹介させていただきます。

同窓会の役割は、第一に卒業生相互の親睦と融和を図ること、第二に在学生の支援をはじめ母校の発展に寄与することだと考えています。

まず、卒業生相互の親睦と融和については、新型コロナの感染拡大によって、農学部同窓会はもちろん各支部でも総会等の会合ができず、役員の方々に

は、たいへんご苦労いただいていると思います。

このような中、同窓会や卒業生の動き、大学や学生の動きなどを知ることができる方法の一つが、全学同窓会報「楠の葉」や農学部同窓会報「ありあけ」です。この「ありあけ」No.30は7月に発行し、「楠の葉」と一緒に会費納付の会員にお届けしています。また、1月1日号は、農学部同窓会ホームページで閲覧していただいております。皆さん、是非、パソコンやスマートフォンでご覧いただきたいと思います。

振り返れば、会報「ありあけ」は、15年前の平成19年（2007年）12月1日に佐賀大学農学部同窓会報として創刊号（モノクロでの8ページ）が発行されました。当時、私は理事長を務めておりましたが、編集作業は同窓会長の北川行俊さん（S37年卒 農学・園芸）が自ら担当されました。会報の名称「ありあけ」は創刊号で募集を行い、理事会で決定し、第2号から使用しております。平成24年（2012年）7月1日発行の第10号からはオールカラー・12～14ページで編集されています。編集長は北川行俊さんを皮切りに、村岡実さん（S46年卒 農学・保護）、大久保惇さん（S47年卒 農化・土肥）、内海修一さん（S47年卒 農学・農経）、松尾孝則さん（S52年卒 園芸・病理）、そして、今年度から田代暢哉さん（S54年卒 農学・病理）と引き継がれ、誌面

の充実が図られています。編集長には、紙面の企画から原稿依頼等ご苦労いただいております。

次に、在学生への支援等に関して、令和3年11月に開催の「農学部と同窓会との意見交換」の結果なども受け、在学生・教職員・卒業生との交流会やキャリアデザイン講座開催、卒業生への農学部同窓会長賞の授与などに加え、新たに学生向けのMOT教育（農学部食農教育特別プログラム）への支援や、海外の大学との研究連携の推進に向けた学生支援の検討も行うこととしております。

さらに、SNSを活用した同窓会の情報発信と会員の一層の親睦を図るため、農学部食資源環境科学教授で同窓会理事の田中宗浩さん（H4年卒 学生・施設）にFacebookを立ち上げていただいておりますので、同窓会からのタイムリーな情報発信に活用できるものと期待しています。

同窓会が活性化していくためには、同窓会の活動や大学の動きを会員の皆様にかんじて適切に伝えていくかだと思えます。そのためにも、同窓会のホームページやFacebookなどのSNS、そして、会報「ありあけ」などが活用されるよう努めていきたいと考えておりますので、会員の皆様のご理解とご支援をお願いします。



※農学部ホームページでは、これまでに刊行された同窓会報「ありあけ」の創刊号から最新号までのすべてが掲載されています。ぜひご覧ください。

令和4年度第37回農学部同窓会総会について

会員の皆様には、第37回農学部同窓会総会を5月14日（土曜日）に開催する計画でご案内させていただきましたが、一昨年と昨年に続き、新型コロナウイルス感染拡大により、残念ながら3年連続の中止とさせていただきます。

総会資料につきましては、同窓会ホームページに掲載しております（閲覧パスワード：2022Soukai37）ので、本会報では詳細は省略させていただきます。

会員の皆様には、本同窓会の令和3年度事業報告と令和4年度事業計画がこのような形での報告となることに対しまして、ご了解いただきますようお願い申し上げます。
農学部同窓会会長 森田 昭（S52年卒 農学・農経）

令和3年度事業報告及び収支決算

(R3.4.1～R4.3.31)

■事業報告

令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大により、各種交流会をはじめとした行事の中止など、活動に制約を受けることが多かったが、会報「ありあけ」第28号、第29号の発行をはじめとした会員間の絆醸成に寄与する活動を進めた。

また、在学生支援活動においても、大学と同窓会の意見交換会、大学主催の就職ガイダンスへの講師派遣、農業版MOTへの協力支援など、農学部同窓会の円滑な運営、支部活動の充実に努めた。

■収支決算

(1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科目	令和3年度 予算 (A)	令和3年度 決算 (B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	418,480	418,480	0
会費	3,560,000	5,101,480	1,541,480
学生(新入生)	3,080,000	3,234,000	154,000
一般会員	480,000	1,867,480	1,387,480
雑収入	80,003	79,351	-652
特別会計戻入	651,517	0	-651,517
計	4,710,000	5,599,311	889,311

【支出の部】

単位：円

科目	令和3年度 予算 (A)	令和3年度 決算 (B)	比較増減 (B-A)
事務費	1,160,000	610,321	-549,679
会議費	450,000	37,000	-413,000
事業費	800,000	1,570,988	770,988
組織強化費	330,000	123,325	-206,675
全学同窓会負担金	1,540,000	1,617,000	77,000
特別会計への繰出金	370,000	1,423,500	1,053,500
学生入会金	70,000	73,500	3,500
学生平準化準備金	300,000	1,350,000	1,050,000
予備費	60,000	0	-60,000
計	4,710,000	5,382,134	672,134

※収入5,599,311円－支出5,382,134円＝217,177円（次年度繰越）

(2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科目	令和3年度 予算 (A)	令和3年度 決算 (B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	13,025,867	13,025,867	0
一般分	6,702,852	6,702,852	0
会費平準化準備金	6,323,015	6,323,015	0
入会金	70,000	73,500	3,500
会費平準化準備金	300,000	1,350,000	1,050,000
雑収入	264	139	-125
計	13,396,131	14,449,506	1,053,375
一般分	6,772,984	6,776,383	3,399
会費平準化準備金	6,623,147	7,673,123	1,049,976

【支出の部】

単位：円

科目	令和3年度 予算 (A)	令和3年度 決算 (B)	比較増減 (B-A)
繰出金	651,517	0	-651,517

※収入14,449,506円－支出0円＝14,449,506円（次年度繰越）

令和4年度事業計画及び収支予算

(R4.4.1～R5.3.31)

■事業計画

同窓会が会員にとってより身近なものとなるように、会報の発行や新たに立ち上げたFacebookページの活用など、各種情報提供を行う。また支部未加入者の加入促進や地域組織との連携強化をさらに進め、支部活動の充実・活性化による組織強化を進める。

また、農学部との意見交換等を通じて連携を図りながら、引き続き在学生への支援活動や卒業生との交流促進に取り組む。

■収支予算

(1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科目	令和3年度 予算 (A)	令和4年度 予算 (B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	418,480	217,177	-201,303
会費	3,560,000	3,580,000	20,000
学生(新入生)	3,080,000	3,080,000	0
一般会員	480,000	500,000	20,000
雑収入	80,003	80,003	0
特別会計戻入	651,517	622,820	-28,697
計	4,710,000	4,500,000	-210,000

【支出の部】

単位：円

科目	令和3年度 予算 (A)	令和4年度 予算 (B)	比較増減 (B-A)
事務費	1,160,000	1,160,000	0
会議費	450,000	240,000	-210,000
事業費	800,000	800,000	0
組織強化費	330,000	330,000	0
全学同窓会負担金	1,540,000	1,540,000	0
特別会計への繰出金	370,000	370,000	0
学生入会金	70,000	70,000	0
学生平準化準備金	300,000	300,000	0
予備費	60,000	60,000	0
計	4,710,000	4,500,000	-210,000

(2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科目	令和3年度 予算 (A)	令和4年度 予算 (B)	比較増減 (B-A)
前年度繰越金	13,025,867	14,449,506	1,423,639
一般分	6,702,852	6,776,383	73,531
会費平準化準備金	6,323,015	7,673,123	1,350,108
入会金	70,000	70,000	0
会費平準化準備金	300,000	300,000	0
雑収入	264	264	0
計	13,396,131	14,819,770	1,423,639
一般分	6,772,984	6,846,515	73,531
会費平準化準備金	6,623,147	7,973,255	1,350,108

【支出の部】

単位：円

科目	令和3年度 予算 (A)	令和4年度 予算 (B)	比較増減 (B-A)
繰出金	651,517	622,820	-28,697

令和4年度農学部同窓会役員

役職	担当	氏名	卒年・学科(専攻)	所属(出身)	佐大同窓会役職
会長		森田 昭	S52・農学(農経)	佐賀県支部	副会長
副会長	会費対策	鐘ヶ江直雅	S56・農化(生化)	佐賀県農協連支部	副理事長(会報発行部長)
	会計(会報)	郡山 益実	H7・生生(浅海)	佐賀大学	理事・会報発行部
	組織強化	松尾 信寿	S63・園芸(果樹)	教職員支部	理事・学生支援部
理事長	会計(会費対策)	野中 一弥	H元・農化(土肥)	佐賀県庁支部	理事・庶務部
理事(編集長)	会報	田代 暢哉	S54・農学(病理)	佐賀県支部	
理事	組織強化	吉賀 豊司	H2・園芸(応動)	佐賀大学	理事・支部強化部
	学生支援	田中 宗浩	H4・生生(施設)		理事・情報管理部
	会報	福田 伸二	H7・応生(植ウ)		
	会費対策	宮本 英揮	H10・生生(水利)		
	組織強化	徳本 家康	H14・生生(水利)		
	学生支援	龍田 勝輔	H15・応生(害虫)		
	組織強化	本村 祐美	H7・応生(植ウ)	佐賀県庁支部	
	学生支援	井上 賢二	H3・農土(土改)		
	会報	近藤 知弥	H8・応生(調節)		
	組織強化	安藤 新一	H14・応生(遺資)	佐賀県農協連支部	
	学生支援	今江 吉則	H10・生生(農場)	教職員支部	
	会費対策	福田 喜隆	S63・農土(土改)	佐賀市役所	
	〃	山口 鶴美	S57・農土(干)	佐賀県支部	
	会報	大坪 正幸	S59・農学(農経)		
	監事	アドバイザー(会務全般)	瀬尾 裕一	S63・農学(育種)	佐賀県庁支部
河野 宏			S63・農学(畜産)		
佐賀県庁支部長		鍵山 勝一	S61・農学(作物)		
佐賀県教職員支部長		江島 博文	S62・農化(食営)	教職員支部	
佐賀県農協連支部長		西村 隆嗣	H3・農学(植ウ)	佐賀県農協連支部	
農業自営者の会会長		大庭 英二	S51・園芸(果樹)		
佐賀県支部長		服部 二郎	S50・農土(土改)		
神埼支部長		花田 健児	S47・農学(病理)		
熊本県庁支部長		伊藤 寿朗	S60・農土(土改)		

※令和4年度に新たに役員になられた方は赤字で表記しています



新役員の顔ぶれ

■■ 同窓会会長賞受賞によせて ■■

令和3年度の同窓会会長賞に3名が選ばれました。佐賀大学同窓会会長賞が「岡本 聖羅」さん、そして、農学部同窓会会長賞が「西牟田 昴」さんと「川久保 修佑」さんに授与されました。いずれも優れた研究成果はもちろんのこと、課外活動における社会貢献が高く評価されています。ほんとうにおめでとうございます。受賞された皆様には今後なお一層の御活躍を期待するとともに、佐賀大学を巣立っていかれた後も本学のことを気にかけていただき、お支えくださいますようお願い申し上げます。



佐賀大学同窓会会長賞

農学研究科 生物資源科学専攻
生物科学コース

岡 本 聖 羅

この度は、佐賀大学同窓会会長賞という名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。

私は在学中に佐賀平野における外来淡水エビの侵入定着状況の解明についての研究に取り組みました。本研究では佐賀平野内の河川やクリーク（農業用水路）、池を対象に、たも網を使つての捕獲調査を実施し、外来淡水エビの侵入範囲の解明を進めていきました。その結果、佐賀平野内の広い範囲で外来淡水エビが侵入しており、外来種のみならず在来種も生息しているものの、外来種の割合が圧倒的に大きい地点が多数あることが分かりました。

逆に、こういった地点でまだ在来種が残っているのかを考察することで外来種の広がり方の仮説を立てることもできました。今回の受賞ではこれらの結果を学会で発表したことや、調査場所の除草作業や小中学生を対象とした自然観察会のスタッフとしてのボランティア活動などを評価していただきました。今回の受賞は私一人の力ではなくシステム生態学研究室の皆さんの協力や指導教員の徳田誠准教授の熱心なご指導があったおかげであると思っています。この場を借りて心からお礼申し上げます。

私はこの4月からは三井郡大刀洗町で農業を検査する会社の職員として勤めています。研究を通して学んだ地道に積み重ねて努力することや、他者と協力して何かを成し遂げていくことの大切さを今後の人生に生かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



農学部同窓会会長賞

農学研究科 生物資源科学専攻
食資源環境科学コース

西 牟 田 昴

2021年度修士卒業の西牟田昴と申します。この度は農学部同窓会会長賞という名誉ある賞をいただき、たいへん光栄に存じます。

私は学部3年生のときに上野先生の研究室（生産環境化学分野）に縁があって配属されました。当初は今まで見たこともない実験機器や英語論文に戸惑い、「本当にここでやっていけるのだろうか」と打ちひしがれたことをよく覚えています。しかし、分からないことや疑問に思ったことを先輩方や上野先生に質問すると、その都度たいへん丁寧に解説して

くださるので、少しずつではありますが分かることが増えてきて次第に実験や論文読解が楽しくなりました。

私が4年生の夏休みの時に九州北部豪雨によって鉄工所から工場油が流出する事故が発生し、上野研究室として何かできることはないかと先生と相談した結果、化学分析的なアプローチで水田土壌の汚染を評価することを試みました。ありがたいことにその時の調査結果は私の初めての学術論文として出版されるとともに、佐賀県庁などの会議で災害対策のモデルケースとして紹介していただきました。この時私は自分のやってきたことが社会に還元され、現場の問題解決に貢献できたと感じ、たいへん嬉しくなりました。

私はこの4月から沖縄県にある環境調査の会社で働いております。沖縄では米軍の有機フッ素化合物

流出や海洋ごみなどが問題になっており、仕事はたいへんではありますが、環境問題解決を通して社会の役に立ちたいという信念のもとに働いております。最後に修士論文の副査である宮本先生、原口先生、

共同研究者である宮脇様、松神様、高橋先生、倉持様、門上先生、加先生、槻木先生、そして3年生から修士2年まで手厚くご指導いただきました上野先生にこの場を借りて御礼申し上げます。



農学部同窓会長賞

農学研究科 生物資源科学専攻
生物科学コース

川久保 修 佑

この度は、農学部同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。私が学部および大学院在学中に取り組んできた、植物ウイルスの分子進化と系統地理学に関する研究について授与していただきました。

私が所属していた植物ウイルス病制御学研究室の大島先生は、アブラナ科植物に感染するカブモザイクウイルスを長年にわたって世界中から採集されてきました。その膨大なコレクションを用いて、ウイルスの遺伝子に隠された進化の歴史を紐解くのが私の研究テーマでした。スーパーコンピュータを用いて解析した結果、本ウイルスは歴史的な交易路である

シルクロードをも辿ってユーラシア大陸を西から東へ拡散してきたことが明らかになりました。以上は、大陸規模における植物病原体の拡散経路を世界で初めて解明した研究成果であり、米国科学アカデミー紀要という著名な学術誌に掲載されるとともに、大学の広報誌や佐賀新聞などにも取り上げていただきました。

今回の受賞は、素敵なテーマとの出会いを与えてくださっただけでなく、研究者としての姿勢を熱心に指導していただいた大島先生をはじめ、本研究室の歴史を繋がれてきた卒業生の皆様、ならびに、ともに研究に励んだ研究室メンバーの皆様のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

この4月からは、北海道大学大学院農学院博士後期課程に進学し、日本学術振興会特別研究員として、引き続き植物ウイルスの進化を研究しています。佐賀大学で学んだ経験を活かし、お世話になった皆様に恩返しできるように、精進してまいります。

同窓会感謝状贈呈者の紹介

令和4年度の佐賀大学農学部同窓会長賞は、佐賀県支部から推薦のあった「金丸安隆氏（S43年卒 農学・畜産）」に決定しました。

今年5月14日開催予定であった同窓会総会の場で感謝状が授与されることになっていましたが、ご承知のように新型コロナウイルス感染症の関係で総会を中止せざるを得なくなり、感謝状を郵送でお届けしました。この誌面で、金丸氏のご功績の概要を紹介します。

金丸安隆氏は佐賀大学農学部同窓会佐賀県教職員支部の推薦を受け、平成22年度から25年度までの4年間にわたって農学部同窓会の会長として、会の活性化に尽力されました。特に総会を開催するにあたって、会員による落語や在学生等による楽器



演奏、合唱など多岐にわたる企画を提案され、それらを実行されることで、出席者の増加と会の盛り上げに貢献されました。また、組織の強化と会運営の課題である会費納入の増加を図るために、県内はもとより、県外における同窓会支部の立ち上げに尽力されました。現在、県内外に7支部が組織され、活動しています。

さらに、平成26年度からは佐賀大学の各学部同窓会長の推薦を受けて、平成29年度までの4年間、全学同窓会会長として会を統率されるという重責を担

われました。なかでも特筆されることとして、地区同窓会の立ち上げがあります。これまで手薄だった佐賀県内における全学同窓会組織の強化を図るために、各地区に各学部から選出された地区委員を設置するなどして県内11地区に地区同窓会が組織されました。地区同窓会の運営を通して、学部横断的な交流が図られており、同窓会の活性化を図る上で、その貢献は多大なものと言えます。

さらに、卒業・修了する学生・院生を対象に全学同窓会長賞を農学部同窓会での取り組みを参考にして新設されるなど、在学生の支援に積極的に取り組まれました。

以上のように金丸安隆氏の同窓会活動におけるご功績は多方面にわたっており、極めて偉大なものがあります。今後ともますますのご活躍を祈念するものであります。

田代 暢哉（S54年卒 農学・病理）

農学部情報

恩師からのメッセージ

今年の春、農学部を退職された2名の先生方から、同窓会員に向けて貴重なメッセージを投稿いただきました。先生方にはこれまで同窓生が賜った御高配に感謝申し上げますとともに、これからの御健勝とさらなる御活躍をお祈り申し上げます。

佐賀と佐賀大学の 思い出

和田 康彦



佐賀と佐賀大学の第一印象

九州も初めてなら大学教員も初めての経験なので一抹の不安があり、赴任する2週間ほど前に佐賀大学を訪問しました。最初に岡本先生に一本杉の公務員宿舎を案内してもらったのですが、麦畑の真ん中にぽつんと一棟の宿舎があって、その裏には広い緑の芝生があり、子供たちが走り回って遊んでいました。そして大きな子が小さな子の面倒を見ているのがすごく印象的でした。筑波学園都市も広い芝生がありましたが、どちらかというところ林の中という感じだったので、すごく明るくて元気な土地に来たなという第一印象でした。

佐賀大学の居室も見せてもらったのですが、デスクが1つぽつんとあっただけでした。そこに女子学生さんたちが古いスチール戸棚を運んできたのですが、屋外に放置してあったようで鳩の糞だらけでした。女子学生さんたちにお願ひして掃除してもらったのですが、実に丁寧に掃除していたのを昨日のことに覚えています。その後、授業を担当したり卒論指導することになるのですが、学生さんのレベルは私の想像よりもはるかに上でした。

実験室デビュー

岡本先生に最初に言われたのは、「DNAの実験を学生に教えてほしい。ただし、予算はほとんどない」ということでした。学生といっても博士や修士の院生と4年生、3年生です。「実験室を見せてください」というと少し躊躇されましたが、古いケルダールの機器がある物置のような部屋を見せてくださいました。これはまずいと思って助教授の小林先生に相談すると、小林先生の実験室の1つの実験台の半分を空けてくださいました。これがそれまでほとんどコンピュータと統計ばかりをやってきた私の実験室デビューになります。

センターの貸し実験室

佐賀大学の状況はわかったので前任地のつくばの研究室長に泣きを入れて研究プロジェクトの末端に加えていただきました。その予算の一部を使って2スパンの実験室の半分を利用できるようになりました。場所は今はオプティムがある建物の2階です。農学部からはかなり距離があり、学生さんと一緒に自転車で往復していました。少しずつ機器をそろえ、

なんとか卒論実験ができるようになるまで2年近くかかっています。

情報処理演習

1年生の情報処理演習を受け持つのが採用の条件でした。農林水産省では県の職員を中心にかなりの人数のパソコン演習を担当していたのですが、学生さんの優秀さに引張られて、かなり統計的な技術レベルの高いことを要求していました。ただ今でもこのやり方は正しかったと思っています。日本の大学ではもっと実践的でレベルの高い統計技術を教えるべきです。それができていないので、日本はインターネットやIoT、AIで後れを取っているのだと思います。

教育委員長

教授になった次の年から様々な役職がまわってくるようになりました。卒業謝恩会の帰りに理工学部の遠藤先生に声をかけられたのが運のつきで、教務関係が多かったですね。私の父親は高校教師を振り出しに教育畑を歩んだ人でしたが、自分が教務に関わるとは思ってもみませんでした。教育委員長、教務担当副学部長の時には、教務の職員の皆様には非常にお世話になりました。また、私の時に文部科学省からの圧力(?)で導入されたいろいろなシステムがいまだに先生方を悩ませているようで心苦しい限りです。

引っ越し・引っ越し・断捨離

私は意外と引っ越しが多いです。大阪の都島を皮切りに卓球の王子サーブで有名な阿倍野区王子町、応神天皇陵が見下ろせた羽曳が丘、京都でも1回引っ越ししています。筑波では独身寮から世帯用宿舎に、佐賀に来てからも一本杉の宿舎からマンションに、農学部では北棟の改修があったので居室を2回、実験室を4回と、引っ越しのたびに少しずつ物を捨てているのですが、不思議と荷物が次第に増えていきます。3年に1回はどこか引っ越ししている勘定になるので、もっと引っ越ししやすいようにしておけばよかったと反省しています。そして今、山中先生と学生さんたちに助けられながら居室と実験室の片づけをしているところです。

最後になりましたが、先生方や職員の皆さんには大変お世話になりました。これからは佐賀大学教員OBとして少しでもお役に立てればと思っております。



農業版MOT教育を終えて

内海 修一

(S47年卒 農学・農経)



食・農産業を担う多彩な人材が巣立つ

佐賀大学大学院農学研究科では、平成22年度から食・農産業を牽引する農業人材育成を目的に全国に先駆けて農業版MOT (Management of Technology; 農業技術経営管理) 教育に取り組んできました。令和3年度をもって農業版MOT教育プログラムは終了しましたが、これまで12年間に社会人86名、大学院生38名が修了し、食・農産業の多様な分野の担い手として、また指導者など地域のリーダーとして活躍しています。

社会人・大学院生にとってのMOT教育

MOT教育は、社会人にとっては学び直しのある場であり、また大学院生にとっては社会人と共に学ぶ実践的教育の場でもありました。社会人からは「農学部の新しい科学技術や知見に触れ科学的・客観的なものの見方・考え方が身についた」、「異業種間の交流の中で多様なものの見方や考え方を学び、自らの業界や経営の振り返りを通じた経営改善や新しいビジネスモデルの構築につながった」、「大学の先生や異業種の仲間とのネットワークが最大の財産」、などとの意見が出されていました。一方、大学院生からは「社会人と一緒に勉強することでリアルな農家の現状や農業のマネジメントの重要性を感じることができた」、「大学生にはない熱意や行動力、目的意識の明確さなど様々な場面で刺激を受け、職業選択のきっかけになった」、「授業がリアルで大学の授業に比べ実際の仕事や業務を連想させ、今後の社会人



としての生活に生かせる内容だった」、などの感想が寄せられました。地域と大学をどう結び付けていくかが私にとっての課題でしたが、一年、一年が新しい出会いの連続で、学ぶことの多い貴重な経験になりました。

悪戦苦闘の修論作成とコロナ禍の対応

社会人にとっては修論作成が大きなハードルで、悪戦苦闘の毎日だったと思います。農業経営者にとっては日ごろ使い慣れている農機具に代わってパソコンを使っただけの資料作成や報告、さらに課題解決に向けた論理的な思考や分析手法の検討など、苦勞の多い一年であったことでしょう。また、コロナ禍での10月入学やオンライン教育など予測がつかない環境下の中での教育など、様々な苦勞にも直面しました。

しかしながら、仲間同士で支えあいながら修論発表をやりきった修了生一人、一人の充実感溢れる顔が今でも鮮明に浮かんできます。

広がる修了生のビジネス領域

新商品の開発・販売をはじめ、新たな販売戦略や法人化・IT化等経営の高度化、さらに農福連携や耕作放棄地の再生、学生の研修教育のサポート、地域の多様な資源を結び付けるコーディネーターなど、ソーシャルビジネスへと事業領域が展開し、MOT終了後も同窓会組織である「アグリマイスターの会」を中心に新しいことへの挑戦が続いています。



大学の農学研究に新たなページを刻む

今、大学の地域社会への貢献が問われています。その中で、農学研究・教育の深化に加え、地域と密着しながら「農業経営者教育」を通して食・農産業を担う人材育成に本格的に挑戦してきたことは最大の教育財産であり、農学研究に新たなページを刻んだものと思っています。

地域に信頼される地方大学として今後一層発展していくためにも、農業人材の育成は最も重要で喫緊の課題です。これまで蓄積してきた農業版MOTの教育資源を一層充実・強化して、佐賀大学農学部ならではの「農業経営者教育」が発展していくことを期待しています。

最後になりますが、これまでMOT教育を支えて頂いた佐賀大学および農学部の全教職員の皆様、支援を頂いた農学部同窓会に心からのお礼を申し上げます。

研究室紹介

その⑱

食資源環境科学コース 農業生産機械学分野

准教授：稲葉 繁樹

佐賀大学農学部同窓会の皆様には農学部・農学研究科の活動に関し、たいへんお世話になっており、感謝申し上げます。これからも母校の出身学部へのご支援をお願いいたします。

農業生産機械学研究室の研究室構成員は、今年は教員1名、学部生8名となっています。卒業生は、農業・食品機械メーカー（ヤンマー、井関農機、サタケ、大橋等）、農業関連会社（クロスエイジ、JA全農等）をはじめとして様々な分野（各種民間企業・公務員）で活躍しています。

農業生産機械学分野では、農業に「関わる」機械についての研究を行っています。現在の農業機械の分野における研究対象は、圃場（田や畑）で使う機械はもちろんのこと、収穫後の乾燥・調製・貯蔵用の機械、さらにGPS・インターネットを利用した情報技術も対象としています。ゴム製の履帯（通称キャタピラ）走行装置の振動解析や設計シミュレーションの構築、共同乾燥施設における新規導入設備の評価、穀物評価技術の新たな手法の開発など、多岐にわたり研究に取り組んできました。

ゴム履帯は日本で使用される農業機械、特にコンバイン収穫機やトラクタなどで盛んに用いられています。地元の生産現場（共同乾燥施設）・JA全農・農業機械メーカーとは、新しく開発されたシステムの実証実験を行いました。穀物評価技術においては、大麦の「硝子率」に着目しています。大麦にはデンプン質が主となっている粉状質部分とタンパク質含有量が高い硝子質部分が混在しており、これらの比率が品質評価の一つの項目となっています。この検査は特定の機関でのみ実施されていますが、生産現場や実需者の現場での評価ができれば、その大麦から生み出される製品の品質向上に寄与できます。そこで、当研究室では画像処理技術を利用した検査方法の開発について取り組み、一定の成果を得ることができました。

現在、この検査過程をさらに進歩させるため、非破壊で行える技術の開発に取り組んでいます。

また、新しい試みとして、農学部の当分野を含む複数の分野と理工学部の複数の分野で研究協力のグループを立ち上げ、農業に対する工学技術の導入について共同研究を行っており、先ほどの検査技術におけるAI技術の導入もテーマの一つとなっています。

最近では、学生の教育において農業での利用を前提とした情報技術教育にも力を入れています。ゼミにおけるプログラミング言語（pythonなど）の修得を目指したり、卒業研究において画像処理の手順をMATLABで自動化したりするなどの試みに取り組んでいます。

農業には様々な問題があります。現在の農業従事者の平均年齢は66.8歳（2019年）に達しているのに対し、新規就農者は5万～6万人の間を推移しています。その結果、農業従事者は高齢化が進み、その数は減る一方となっています。その要因として農業は、「重労働である」「（繁忙期は）定期的な休みが取りにくい」「生物（植物／動物）相手なので個体差があって機械化が難しい」「世話をしなければならぬ時刻が一般的な労働に従事する時刻と必ずしも一致しない」、などの問題があげられます。しかし、ICT/IoT技術を用いたシステムは24時間労働が可能です。また機械と情報技術を組み合わせることで、熟練者ではない人でも高度な作業をこなすことができるようになり、パートタイムの方でもベテランと変わらない高度で繊細な作業を行うことができるようになります。

江戸時代、日本の人口約3,000万人のうち、農業に従事している人の数は2,500万人もいたそうです（農家1人あたり1.2人分の食料生産量）。ちょっと乱暴な計算ですが、現代日本の食糧自給率（カロリーベースで）が37%程度であることから、約4,400万人の食料（農産物）生産を国内で行っ



研究室メンバー（令和2年度）

米食味分析装置
(左から粉砕食味測定装置、穀粒判別器、炊飯食味測定装置)

ていると仮定します。すると、農業就業人口は168万人（2019年）ですので、農家1人あたり26人分の食料生産を行っていることになります。これをもたらしているのが機械力の導入です。米の収穫を例にとると10a（約千㎡）の作業時間は1966年に54時間（脱穀は含まない）でしたが、2005年には約4.3時間（脱穀も含む）となっており、いかに現在の農業が機械によって効率的に行われ

ているかがわかります。

日本の総人口が減少に転じた反面、地球全体の人口は爆発的に増えつつあります。将来にわたっての食料生産手段の維持・発展は今後ますます重要な課題となります。農業生産機械学分野では、これからも日本の食料生産能力の維持・発展のための研究に取り組んで参ります。

トピックス

第6回佐賀大マルシェ～菜祭～を開催

生物資源科学科 国際・地域マネジメントコース 准教授 辻 一成

2022年3月19日から3月21日の3日間、「食農基礎技術マスター特別教育プログラム」を受講している農学部2年生（当時）12人が中心となって、佐賀市中央本町の222（ツーズリー）ビル交流オープンスペースCosaで、通算6回目となる佐賀大マルシェ～菜祭～を開催しました。市街地で3日間連続して佐賀大マルシェを開催したのは初めてのことです。

特に今回のマルシェは特別教育プログラム受講中の学生が自分たちのアイデアで企画運営したもので、インターンシップ先での農作業から始まり、農畜産物や加工食品など商品の調達、販売、接客まで一連の農業関係ビジネスを実地で学ぼうという試みでした。学生一人一人が、丹精込めて生産されたインターンシップ先の農産物や加工食品のことを生産者の思いも交えてよく理解し、いろいろと工夫して販売しました。

これまで佐賀大マルシェは、「ともに学びあう」、



「仲間とつながる」、「地域とふれあう」ことをコンセプトで開催してきました。これらコンセプトは今後も変わらないまま、ますます学生たちの瑞々しい感性が発揮される佐賀大マルシェを継続していきたいと考えています。

ところで、冒頭で紹介した「食農基礎技術マスター特別教育プログラム」は2019年度から開始した新しい農学教育の試みです。地域の農業人材を育成することを目的に、学生の食と農に関する基礎技能の修得と定着を図るため、座学と実習及びインターンシップを効果的に組み合わせた特徴あるカリキュラムを提供しています。また、その運営面では、2021年度まで12年間にわたって大学院農学研究科で実施した農業技術経営管理士育成講座（通称、農業版MOT）を修了した地元の農業者をはじめ地域社会の多くの方々から手厚い協力をいただいています。つまり、この農学部生向け特別教育プログラムは、大学と地域社会との密接な関わり、互いの協力によって成り立っているとてもユニークな取り組みといえます。

農学部同窓会におかれましても、このような農学部教育の新しい挑戦に関心をもっていただき、温かいご支援を賜れば有難く存じます。



第11回佐賀大学ホームカミングデーの開催 (※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては変更があります。)

【期日】 令和4年11月5日(土) 【場所】 佐賀大学本庄キャンパス

【目的】 佐賀大学の卒業生に母校佐賀大学を訪問していただき、母校の現状を知り、恩師・学友との再会と交流を深め、今後の母校へのご理解とご支援をいただければ幸いです。

【対象】 卒業年等にかかわらず、全ての同窓生と本学の名誉教授

【内容】 大学の近況報告、講演、在校生によるアトラクション等
※詳細は決定次第、佐賀大学校友会のホームページでお知らせします。

(URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>)

【申し込み・連絡先】

佐賀大学校友会事務局

TEL : 0952-28-8390

E-Mail : koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp

第10回佐賀大学ホームカミングデー(令和3年11月6日開催)の様子は、こちらからご覧ください。
(URL <https://youtu.be/lvC881PGJxM>)



また、佐賀大学校友会において「同窓生へ贈る佐大正門の今」をテーマに、動画「佐賀大の歴史(正門編)」を制作しました。ご覧いただければ幸いです。

(URL <https://youtu.be/3imC85A21Rg>)



若手OB・OGからのメッセージ

天敵を利用した害虫管理の 技術開発に従事して

長崎県北振興局南部地域普及課 永石久美子
(H27年卒 応生・昆虫)



私は佐賀大学農学部を卒業後、長崎県庁に入庁し、長崎県農林技術開発センター環境研究部門病害虫研究室で5年間勤務し、2022年度からは佐世保市にある県北振興局南部地域普及課に配属となりました。現在の職場には勤務して2か月ほどしか経っていないため、いろんなことが新しく、日々勉強しております。ですので、今回は長崎県農林技術開発センターでの経験についてお話させていただきます。

私が所属していた病害虫研究室ではイチゴやアスパラガス、タマネギなどで発生する病害虫の発生生態解明、被害解析、調査技術および防除技術確立を業務としています。その中で、私は主にイチゴのハダニ類やアザミウマ類に対して天敵を活用した害虫管理技術の開発を行っていました。

長崎県で栽培されているイチゴの主要品種「ゆめのか」は、これまで栽培されていた「さちのか」に比べて大果で多収性であり、長期間収穫ができるという特徴があります。しかし、その一方でハダニ類が発生しやすいという現場の声がありました。また、ハダニ類は薬剤抵抗性の発達が懸念されているため、化学薬剤のみに頼らない防除技術の開発が求められています。現場でも天敵によるハダニ類防除が行わ

れていますが、天敵利用で失敗しないためには、天敵の放飼前にハダニ類の密度を0にすること(ゼロ放飼)が重要となります。

そこで、定植前のイチゴ苗に高濃度炭酸ガス処理を行い、ハダニ類の密度を0にしてから、天敵であるミヤコカブリダニとチリカブリダニを導入する試験を行いました。その結果、調査を行った3月末までハダニ類の発生を抑えることができました。定植後からハダニ類の発生を抑えることで、栽培期間を通して薬剤防除回数も低減でき、ハダニ類の薬剤抵抗性発達のリスクも抑えることにつながります。

さらに、アザミウマ類に対しては防虫ネットのハ



高濃度炭酸ガス処理の様子

ウスサイドへの展張と天敵ククメリスカブリダニを組み合わせた防除技術の開発に携わり、アザミウマ類による果実被害の低減技術の開発を行いました。

現在は、野菜担当の普及員として生産者の圃場に足を運び、イチゴ以外にも様々な野菜の栽培について学んでおります。今後は、これまでに培った病虫害防除に関する知識を生産者に伝え、産地の振興に繋げたいと思います。

最後に、在校生の皆様へ伝えたいこととしましては、農学部で過ごした4年間の思い出は今でも心に残っているものが多く、今の私に大きく影響しているのだと実感しています。ですので、皆様には遊びと研究をバランスよく行い、後悔がない楽しい学生生活を送っていただきたいと思います。



大学で学んだことを活かせる 仕事です！

アグリ・クリエイティブ・シード株式会社 **實松 美里**
(H25年卒 応生・蔬菜花卉)

私は卒業してから福岡県の種苗会社へ入社しました。そこでは「発芽試験」という種子の品質管理業務を担当していました。その後、農業コンサルを主とするアグリ・クリエイティブ・シード株式会社へ平成30年に入社し、主に事務業務を担当していました。

弊社は昨年から福岡県小郡市でいちご生産事業を開始しました。今年の春からは、いちごの観光農園が開園しています。そのため、現在はいちご生産業務も行っており、開園後には観光農園のスタッフとして働いており、新たなチャレンジの年になっています。卒業以来、デスクワークしかしてこなかったため、農作業は肉体的なきつさがありますが、作業はすべてのことが新鮮で楽しく感じられ、これから経験するであろうたいへんな作業もやる気に満ち溢れています。リフティングガター方式というプラントで栽培するため、いちご狩りでは空中に浮かぶいちごを楽しむことができます。いちご農園はまだ名前も決まっておらず、本当に出来立てなのですが、立ち上げから携われることを心から嬉しく感じます。皆さんにもぜひいちご狩りを楽しんでいただきたいです。



私は高校生の頃、特に将来なりたかった職業があったわけでもなく、なんとなく生物にかかわる職に就ければなあ、大学に進めば何かやりたいことも見つかるかなあ、という想いで佐賀大学農学部に進学しました。大学在学中にもはっきりとした進路を決めることができず、たまたまご縁があり種苗会社へと就職しました。現在の会社への入社のもきっかけも前の会社からのご縁でした。前職の発芽試験も現職のいちごの観光農園も高校生の頃にやりたかった生物(植物)にかかわる仕事であり、大学へ、農学部へ進学したからこそあり得る現在なのだなとしみじみ感じます。

ちなみに私がこの原稿を書くことになったのも、同じ会社で働くMさんが本紙に携わっているご縁からです。学生時代を振り返ると、あまり真面目ではなかった私が在学生の皆さんへためになるメッセージを送れるのだろうかと不安ではありましたが、これまで良縁に恵まれてきた恩返しとしてお受けしました。

社会へ出てから、学生時代はなんて素敵な時間だったんだろうと思うことが多々ありますが、どうしてももっと勉強に励み、資格を取得したりするなど将来の役に立つことをしなかったんだろうと後悔することも多々多々あります。ですが、現在ありがたいことに仕事、そしてプライベートでは子育てと充実した日々を過ごすことができています。あまり深く悩んだり、根を詰めたりなどし過ぎず、大切な友人たちと今だけの学生生活を楽しんでください。



会員のた場

同窓生との思いがけない出会い

退職後はサイクリング（自転車旅）を中心に活動し、多布施川や東よか干潟の生き物観察やワイズユース活動にも取り組んでいます。これらの活動を通して、佐賀大学農学部同窓生との数々の出会いがあり、思いがけず老後が充実した時間になっています。

私は今年で創立48年を迎える「エスカルゴcc」（サイクリングクラブ）に平成16年2月に加入し、平成29年1月に初代会長から会長職を引き継ぎました。「エスカルゴcc」メンバーには、退職後に「全国47都道府県自転車一人旅」や「台湾一周自転車旅」をされ、その様子を会報「ありあけ」にも投稿された古川辰馬さん（S40年卒 農学・育種）がおられます。平成24年11月の柳川へのクラブランで出会い、それ以来、クラブの運営などについての良き相談相手になっていただいています。今でも中国語や英語の勉強をされていて、熱気球の国際大会でホストファミリーを務めるなど国際交流にも積極的です。クラブランに外国の方と一緒に参加したり、平成30年4月に実施した韓国との国際交流サイクリングでも、ホストファミリーを引き受けていただきました。

平成30年7月に福岡の「オスカ倶楽部」と実施した宗像交流サイクリングで、スリランカのディシルバ・サーリアさん（H15年大学院修了 農学）と出会いました。息子さんが平成31年の夏休みに佐賀に来た折に、サーリアさん親子と古川さんなど数人のメンバーで、1回目は佐賀市の山間部を走り、2回目は有明海沿岸部を走った後、古川さんの従兄宅で昼食交流会を開いていただきました。その時、アスパラガス農園主の山田和由さん（S49年卒 農学・農経）と卒業以来45年ぶりに再会し、その後、収穫体験型農家交流サイクリングなどの取組みを一緒に行っています。

平成28年に佐賀市が実施したサイクルツーリズム先進地視察（尾道・彦根・飛騨古川）に、服部二郎さん（S50年卒 農土・土改）と一緒に参加しました。この視察を機に、服部さんが所属されていたNPO法人「みなくさSAGA」にサイクリング仲間3人で加入し、サイクルツーリズム（自転車観光）部として、佐賀市や県と連携しながら、サイクリングコースづくりやガイドマップ作成、サイクルラック整備など、サイクルツーリズムを推進する活動をしています。

佐賀市が実施したラムサール条約登録湿地「東よか干潟」ボランティアガイド養成講座で園田博正さん（S42年卒 農学・化）と出会い、平成28年7月からガイド活動をしています。小学生が野外学習で

山口 正吾（S49年卒 農学・病理）

干潟の観察に訪れた時には、よく一緒にガイドする機会があり、ガイド終了後に子供たちの反応や質問などの情報交換を行っています。

令和3年には、佐賀市の東よか干潟ワイズユース推進事業補助金を活用して、服部さんたちと一緒に、「東よか干潟観察ウォーキングガイド」と「ひがしよかこめぐりサイクリングコースマップ」の作成、アスパラ収穫体験検証サイクリングなどを、園田さんや古川さんの協力を得て、地元農家の山田さんたちと連携して実施することができました。

以前は一人で気ままに活動することが好きでしたが、同窓生たちとの出会いをきっかけに、人とつながって一緒に活動する心地よさを感じられるようになって、しだいに活動の幅が広まり、内容も充実してきたように感じています。この絆を大切にして、今後も活動を続けていきたいと思っています。

「環境に優しく健康によい自転車で、出会いと気づき、五感の旅」を、私たちと一緒にしませんか？

興味がある方は、「エスカルゴcc」のFacebookページ（右記QRコード）をご覧ください。



ラムサール条約登録湿地「東よか干潟」サイクリング 2019.12.21
東与賀海岸堤防からの干潟風景（ボランティアガイド活動の帰り）



「東よか干潟」ボランティアガイド活動 2022.4.10
ガイド仲間の園田さん（左）

支部だより

佐賀県支部

令和4年5月、農学部同窓会佐賀県支部の役員交代が行われ、服部二郎新支部長のほか新しい役員体制が決まりました。コロナ禍で今年度も支部総会は中止となりましたが、関係者で同窓会活動の現状等についての情報交換や近況報告を行うとともに、新型コロナウイルス感染症が早期に収束し総会等の開催による会員の親睦が深められるよう意見交換が行われました。

佐賀県支部幹事長 溝口善紀 (S53年卒 農学・病理)



同窓会からのお知らせ

農学部卒業生の皆様へ 会費納入のお願い

卒業生の皆様と同窓会事務局とのつながりを変わることなく保っていくために「会費納入」をお願いします。農学部同窓会の運営経費は、会員の皆様から納入いただいた会費で賄われております。同窓会の運営が母校や後輩学生への支援につながっていることにも想いいただき、重ねてお力添えをお願いいたします。

〈会費〉

- (1) 1年会費は2,000円（毎年納入していただくものです）
- (2) 3年会費は6,000円（3か年分まとめて納入していただくものです）
- (3) 70歳未満の方の終身会費は30,000円
- (4) 70歳以上の方の終身会費は15,000円

会費は納入いただいた時点以降の取り扱いであり、納入以前の未納については問いません。

〈手続き〉

会費の納入方法は、ゆうちょ銀行振替口座への振り込みとなっています。

同窓会事務局（Tel.0952-23-1253）まで連絡をいただければ、払込取扱票をお送りします。

農学部同窓会のFacebookを開設

この度、佐賀大学農学部同窓会のFacebookページを開設しました。同窓会の情報や大学の話題などを発信して行きます。同窓生の皆さんも、近況報告や行事のお知らせなど、情報発信にお気軽にご利用ください（Facebookから「佐賀大学農学部同窓会」を検索してください）。



佐賀大学農学部同窓会
@saganougakudousoukai

編集後記

- 今年は全国各地で梅雨の最短期間を更新し、早々と暑い夏に突入しました。連日マスコミでは熱中症が話題となっておりますが、皆様方はいかがお過ごしでしょうか？
- さて、会報も第30号を発行する運びとなりました（会報の歩みについては新会長の巻頭言に記載されています）。昨年度をもって御退職された和田先生、内海先生をはじめ御寄稿いただきました皆様方には、心よりお礼を申し上げます。
- ところで、私は第27号から編集を担当しましたが、今回をもって田代暢哉氏（S54卒 農学・病理）に引き継ぐことになりました。コロナ禍の中、各種行事が行えず、

編集にも苦勞をしましたが、こういう時こそ会報の役割は増したと捉え、よりタイムリーで興味を引く編集に取り組んだつもりです。

- ところが、せっかく発行しても読んでももらえていないのが現状でした。一方、最近、農学部同窓会のFacebookが開設され、よりタイムリーな情報発信ができるようになりました。今後、田代編集長をはじめ理事の皆さんには、こうした取組みと協同するなど、より多くの同窓生に会報を読んでもいただけるよう知恵を絞っていただくことを期待します。ありがとうございました。

（松尾 孝則 S52年卒 園芸・病理）

協賛広告

この度の同窓会報発刊に際しまして、長引くコロナ禍で経済的にも厳しい状況の中、協賛広告をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げますとともに、協賛各社の益々の御発展をお祈り申し上げます。

サラダ油・小麦粉といえば、
やっぱり理研



JAグループ佐賀 消費拡大運動実施中!

食べよう! 飲もう! 飾ろう!



耕そう、大地と地域の未来。



JAグループ佐賀

JA佐賀中央会/佐賀市栄町3番32号 TEL 0952-25-5115

JAグループ佐賀

検索



青果をとおして
健やかな暮らしを支えていく



福岡市中央卸売市場



福岡大同青果株式会社

代表取締役社長 丸小野 光正 (S 52卒)

〒813-0019 福岡市東区みなと香椎3丁目1番1-204号 TEL.(092)235-8950(代表) <http://fdydo.co.jp>

草場昭夫 (監査役) (S 57卒)

中村春華 (係長) (H 28卒)
(旧姓 石志)

藤井重隆 (課長) (H 8卒)

上野純弥 (係長) (H 28卒) (院 H 30卒)

西田雄輝 (R 2卒) (院 R 4卒)

村井裕樹 (係長) (H 8卒)

小柳文乃 (係長) (H 30卒)



Grain & Pet Care Communication

株式会社 森光商店

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7

PHONE.0942-85-1125(代) FAX.0942-83-8868

ホームページ <http://www.morimitsu.co.jp>